

研究テーマ	富士北麓・東部地域の伝統的な織物を活用した 新商品開発（第2報）		
担当者 （所属）	五十嵐哲也・鈴木文晃・秋本梨恵（繊維）・家安香（客員研究員） 茅暁陽・豊浦正広（山梨大）		
研究区分	最重点化研究	研究期間	平成30年度～令和2年度

【背景・目的】

本県織物産地は、甲斐絹をルーツとする伝統技術を生かしカーテン、衣料、ネクタイ、傘、ストール等を高級市場向けに生産している。近年下請けから提案型への転換が求められる中、従来の取引先からの受注量は縮小しており、産地企業は提案力の高度化と、新市場開拓の双方に対応する必要がある。そこで、これまで研究開発した技術シーズを製品開発の現場で活用するためのツール開発、また技術シーズを最適な市場に向けて製品化する企画デザイン支援を行うことで試作開発の高速化・高度化による競争力強化、新市場・新規顧客の開拓を支援し、従来と異なる新市場（分野・用途）への進出、海外産地等、既存市場の新規顧客の獲得を目指す。

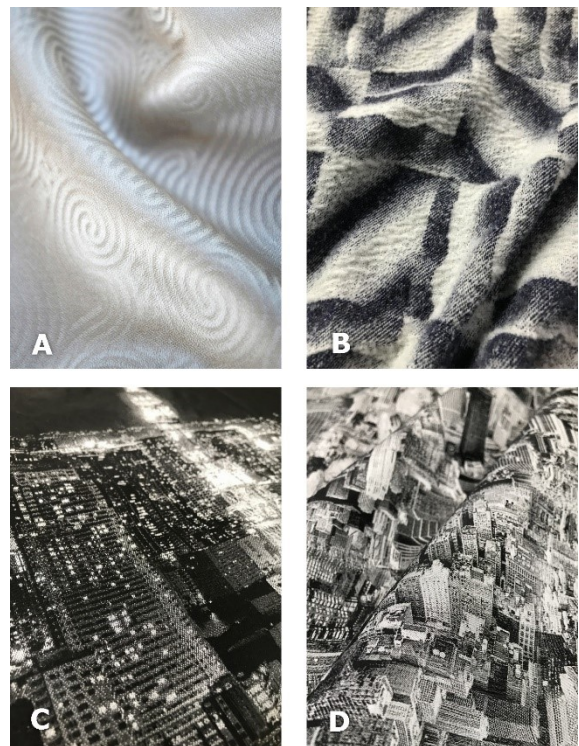
【得られた成果】

*技術シーズであるジャカードデータ生成技術を、織物製造業の企画・デザイン業務に導入するためのツールとして、アプリケーションソフトの機能向上と企業への導入の試行と評価を行った。操作性や機能における改善点など技術的課題のほか、従来手法との違いを踏まえ研修等の導入支援の重要性が明らかとなった。

*技術シーズを生かした新商品の市場投入に向けて産地企業6社の企画・デザイン担当者とともに新規織物の企画及び試作開発を行った。そのうち「やまなし縄文シルクスカーフ」（図1A）が産地企業の新商品として2020年1月に販売開始となったほか、試作品の一部については衣料ブランドバイヤー向け海外生地展示会「ミラノウニカ」（2019年7月）等で展示を行い、具体的な商談機会が得られ、またブランドバイヤーから新規性や応用可能性などの評価を得ることができた。そのほか新たに異なる技術シーズの特長を生かした試作を行い（図1B～D）、今後の展示会等によるバイヤーからの市場性評価を得るうえで有望な素材が得られた。

【成果の応用範囲・留意点】

ジャカード織物全般に応用可能で、試作品を基にした各種生地素材の新商品開発が期待できる。本研究で活用している技術は山梨県、及び山梨県と山梨大学が保有する特許技術及びノウハウが含まれるため、商用利用には実施許諾契約が必要となる。



- A 新商品「やまなし縄文シルクスカーフ」
緩やかな階調を実現する技術シーズを活用
- B 上記技術シーズを質感のグラデーションに活用
- C 明暗コントラストを拡大する技術シーズを活用
- D 微細構造の再現性を高める技術シーズを活用

図1 商品化事例（A）と主な試作生地（B～D）